

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2013.4

vol. 84



就任の挨拶

院長：花田 修一

4月1日付けで山下正文前院長の後任として院長に就任しました。

当院は昭和56年国立南九州中央病院として開設され、その後、国立病院から独立行政法人国立病院機構の病院へ、名称も九州循環器病センターを経て現在の鹿児島医療センターへと改称され現在に至っています。この間、初代の秋田八年先生を筆頭に西村基先生、櫻美武彦先生、鹿島友義先生、中村一彦先生、山下正文先生の6人の院長が先頭に立って病院を牽引、循環器、脳卒中、がんの診療の地域の拠点病院としての地位を確立してきました。

平成21年度からの山下院長の4年間に看護部門の7対1の導入、電子カルテの導入、病院機能評価受審、医師補助、看護補助などの多くの補助業務担当者の採用、病棟再編成（東3階病棟を女性専用から男女混合病棟へ）、病棟整備（SCU6床から9床に、無菌室を5床から19床に）等を行い、CTを更新、新機種2台体制としました。また地域連携のみでなく、がん相談、入院・退院に必要な事を含め、患者さん、ご家族が相談しやすい体制を構築することを目的としてメディカルサポートセンターを立ち上げました。さらに認定看護師の育成にも努力、平成24年度には13人となりました（1人定年退職、1人昇任のため平成25年3月末で異動。平成25年度には2人試験合格後認定予定）。

脳卒中部門開催する市民公開講座はすでに軌道に乗っていましたが、平成23年から心臓血管市民公開講座もスタートしました。また当院は鹿児島県歯科医師会と提携し、がん患者の口腔ケアの改善に取り組んできましたが、鹿児島大学歯学部口腔顎顔面外科分野（旧第二口腔外科）中村典史教授のご協力をいただき、本年3月歯科口腔外科を開設しました。今年度は循環器、脳卒中、がん医療の整備として、腫瘍内科医の赴任に加え、放射線治療装置の更新、救急部設置を目標に救急医療専門医の赴任を予定しています。

平成18年、中村一彦名誉院長の時代に病院改築は完成しました。新築の西病棟のみでなく東病棟もできる範囲で改装等が行われたものの建設後30年以上が経過し、近い将来建て替えが必要となってきています。国立病院機構内では、地域医療の中で信頼され、今以上の高機能を持つ病院をいかに育てていくかの検討が開始されています。一方、今後の鹿児島県の医療についても、鹿児島大学、鹿児島県医師会、鹿児島県の3者で検討がなされ、鹿児島大学、鹿児島市立病院に次ぐ第3の高機能医療機関の設置が望まれています。当院としても鹿児島大学、鹿児島県医師会、鹿児島県のご指導をいただきながら今後の整備を検討していく予定です。

当院が地域の基幹病院として機能を発揮していくために、地域の医療機関の方々と顔の見える関係を構築していくという目標を掲げ、昨年11月に第1回地域医療連携懇談会を開催し、県内から多数の医療機関の院長先生のみでなく、地域連携を担当する方にお集まりいただくことができました。準備不足もありましたが、第1歩とすることができました。病院職員は努力して参りますが、医師会をはじめとする地域医療機関の先生方のご指導、ご協力なしには病院の機能を発揮して行く事は不可能であり、どうぞよろしくお願い致します。



就任の挨拶

副院長：皆越 眞一

新年度が始まりました。副院長と言う職責は私には過分ではありますが、年齢的順番と考え務めさせていただきます。

お陰様で、昨年、鹿児島医療センターは電子カルテシステムの立ち上げと病院機能評価という2つの大切な山を乗り越えましたし、本年3月には歯科も開設され、さらにこの7月には救急救命専門医も赴任予定です。当院は主に循環器（脳・心血管）領域と癌領域を担ってきた専門家集団ならびに専門科の集まりでしたが、これら2つの軸をしっかりと維持・発展させる一方、それらを横断的に組織化するもう一つの軸、すなわち救命救急医療を含んだ総合診療科を作ってゆくことがこれからの当院の目標と自分は考えます。先般行われました日本内科学会評議員会でも総合診療の医療への役割が大きなテーマとして取り上げられています。

これまで病院に参画した様々な人たちの長い間の努力が集積し、当院のこれからの目標もようやく見えてきた感じが致します。院内におけるチーム医療の充実、女性医師の勤務環境の整備、院外における病院間の連携強化など、これからもたくさんの課題がありますが、「病む人とともに」、つねに学び続ける病院と我々であることを再認識し、地域の医療向上に向けて公的病院としての役割を一層充実させてゆきたいものです。

役割上、20近く委員に顔を出さなくてはならないようで、最近午後は部屋から部屋へと蝶（蛾？）のように移動したりしております。慣れないことで戸惑っておりますが、この分だとあっという間に1年が過ぎそうで嬉しいです。



就任の挨拶

統括診療部長：今村 純一

この度、国立病院機構理事長発令により診療統括部長の任を受けました。よく「似合わない役職ですね」と言われます。私自身もそう思います。相応しい有能な方々は他にいらっしゃるのではないかと。こういう人事には「適材適所」と言う言葉がありますが、その観点からは規格外です。院長・副院長が内科系で「癌系」「循環器系」で、たまたま私が「外科系」「脳卒中系」という「バランス人事」が優先されたのだろうと思います。

鹿児島医療センターは「循環器病」「癌」「脳卒中」という3本柱でこれまでやってきました。将来構想もこの3本柱でバランスをとりながら前に進んでいくという骨太方針は受け継がれます。組織は社会環境の中を生きる生き物で、成長変転しながら環境の中で呼吸しています。鹿児島医療センターという病院も生き物です。環境の中で大事な栄養素は社会貢献社会からのニーズ・信頼で、それで生きて行けるのだと思います。逆説的に聞こえるかもしれませんが組織体は、それを構成する細胞（職員）が最も大事です。余裕があり働きやすい、楽しい環境を提供することが、ひいては社会貢献力を作ることになると思います。

私たちは今、高度医療センターに向けて出航しようとしています。楽しい、夢のある船出のようにも見えますが、それらにかかる費用は25年くらいかけて、職員の労働により得られた利潤から支払われねばなりません。やりくり算段をしながら当院を運営していくことが大事になります。私はあまりリーダーシップなど持ち合わせていません。こうした現況の中であって、この役職は裏方であり、サーバント業だと思っております。診療部門で院長・副院長をサポートしていくことが私の主な任務となり、職員の皆さんに働きやすい、楽しい環境を提供できるよう工夫したい、ひいては、そのことが地域の方々への要望や信頼に応えることになれたらと願っております。



就任の挨拶

看護部長：上別府 昌子

この度、4月1日付けで南九州病院から配置換えで参りました上別府（うえんびゅう）です。まだ国立病院九州循環器センターの名称の頃、7階病棟の看護師長、また、国立病院医療安全担当者の一期生として育てていただいた鹿児島医療センターに10年ぶりに戻って参りました。10年という歳月は戻ってきましたと言うには、はばかりがあるほど病院の外見は勿論のこと、そこで医療に携わる方々の努力もあり、病院の様変わりに只々驚いています。

今年の2月、「日本医療機能評価機構」の受審を終えられて、これからは継続することが肝要となります。また、今年度は鹿児島医療センターの将来構想に向けて様々な取り組みが検討されています。救命救急センター施設基準取得に向けての準備、さらに地域に信頼される病院として役割を果たすべき、循環器病・脳卒中・がん医療における救急医療体制強化と専門職によるチーム活動、特に当院には多くの認定看護師がいます。各先生方の協力をいただきながら、それぞれの分野で活躍できるように体制を整えていきたいと考えています

かつての上司から「看護師は患者を中心にした土俵で話をすると、いかなる問題も自己の感情に翻弄されない結論が出てくるし、同調できる。」ということとその姿で学びました。私が看護管理で大切にしていることです。患者さまの、その時々状況を見据えた看護実践ができるように、一人ひとりが力を発揮できる看護部でありたいと思います。また、そのための様々な環境を整えるのが私の役割だと思っています。どうぞ、よろしくお願い致します。



就任の挨拶

附属鹿児島看護学校 副学校長：有村 優子

「新たな時代の看護師の育成にむけて」

日頃から学生の教育に関しましてご尽力いただいておりますことに感謝申し上げます。私は、平成20年4月に教育主事として着任し3年間勤務した後、国立療養所星塚敬愛園に出向し、この4月から再び学校で勤務させていただいております。

着任後、鹿児島医療センター及び南九州病院、指宿病院とご挨拶に伺いましたところ、本校の卒業生がすでに3年目、4年目と経験を重ね、落ち着いた表情で勤務されていました。挨拶を交わしながらその一人ひとりが実習や進路の決定の段階で真剣に考え、自らの将来を意思決定し、前に進んで行こうと懸命に取り組んでいた日々が思い出されました。今はもうすっかり頼もしい存在のようです。また、もう少し前、指宿病院の看護学校で教員として共に時間を過ごした学生さんが、卒業後県内外の病院での勤務を経て当センターに再就職し、中堅として勤務されています。考えてみますと自身の看護人生において基礎教育に、また職員教育に関わってきた時間が長く、改めて教育に関わらせていただいたことに感謝する次第です。

少子高齢化が鮮明になった今、行政は新たな時代の医療と介護を含むケアの支援体制を示しました。看護においては、量の確保とともに質の向上について打ち出し、看護師の看護実践能力の強化や役割拡大、チーム医療の充実に資するよう求めています。学校の基本理念に則り、時代の要求により変わっていく医療、看護の中で柔軟に対応していけるように人や物事のとらえ方を丁寧に教授し、基礎的な実践能力を獲得させ、NHOにそして地域に必要とされる人材の育成に微力ながら努めて参ります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

鹿児島医療センターでの研修を終えて



山下 ひとみ

皆様のお陰をもちまして、当院での初期研修を無事修了することができました。何もできないのに医師免許を持っているだけで「先生」と呼ばれ、最初はもの凄く違和感がありました。今でも分からないことやできないことが多々あり、人生の先輩方にそう呼ばれるのが恥ずかしい時もあります。とはいえ、この2年間で得たものも多く、医療センターで研修でできてよかったと思っています。

4月からは鹿児島大学神経内科の病棟で勤務します。まだまだ未熟な私ではありますが、日々接する先輩方、患者さん達から学び、少しずつ成長して行きたいです。一回り、二回り大きくなって、またこの病院に戻ってきて微力ながら貢献できるように精進します。

ありがとうございました。今後とも先輩たちに温かく、時に厳しく、ご指導をよろしくお願いいたします。



和田 真澄

自分がもう研修1年目を終える状態になるというのが、いまだに信じられない今日この頃ですが…あっという間に医療センターでの1年が過ぎてしまいました。働き始めた4月を振り返ると、なんだかもう自分の中学生時代を今一度振り返るような感覚で、恥ずかしいやら申し訳ないやら、とりえず穴があつたら入りたいような感覚に陥ってしまいます。皆さんにご迷惑をかけながらも、いろいろなことを教えていただけて、本当にありがたい1年だったと思います。1年が過ぎた今もできるようになったと胸を張って言えることは本当に少ないですが、先生方を始め、すべての医療スタッフの方々に育てていってもらえる自分はなんて幸せなポジションにいるんだろうかと感激する毎日でした。

2年目になるということは、先輩もできるというわけで、いつまでも自分が教えてもらう立場ばかりにいるわけにはいかないと思います。次の1年は自分が教えてもらったこと、身につけたことを先輩に教えることで、また自分を成長させられる1年にしたいです。自分は2年目は鹿児島大学での研修になるのですが、この1年でお会いできた皆様に仕事場でも天文館でもまた会えたときにはよろしくお願ひ致します！本当にありがとうございました。



上野 真忠

鹿児島医療センターで研修させていただいた上野真忠です。この2年間は大変お世話になりました。1年目の4月当初は採血やルート確保もできず、苦労しながらも血液内科の大渡先生の指導のもとで徐々にできるようになったのが最初の印象深い思い出です。6月は麻酔科で研修しました。喉頭鏡を用いた喉頭展開・気管挿管をびくびくしながら行ったことを今でも鮮やかに憶えています。7～8月は第2循環器科で研修しました。石川先生や馬場先生、そして当時第2循環器科にいらしゃった吉重先生に何度も激励されたのが懐かしい思い出です。とにかく最初の半年間は実際の臨床現場の雰囲気圧倒されました。その後の研修で特に深く考えさせられたのが糖尿病・内分泌内科での研修です。元から糖尿病に関心がありどのような診療をしているのか学びたいと思いました。しかし、現実はなかなか厳しかったです。現場の糖尿病の患者さんはなかなか食事をはじめとする生活習慣の改善ができず、体重の減量や血糖コントロールに相当の時間がかかるのです。生活習慣病は何よりも予防が重要だと再認識しました。このように各診療科を回るたびに色々な学習や発見ができました。この2年間の経験を今後に生かしていこうと思います。深く感謝しております。大変ありがとうございました。



友松 範博

研修医1年目の平成24年10月から平成25年の3月まで鹿児島医療センターで研修をさせていただきました。平成24年の4月から9月までは鹿児島大学病院で研修をして、桜島コースで研修させていただきました。平成24年10月は小児科を研修させていただき、11月12月は産婦人科、平成25年の1月から3月まで第2循環器科を研修させていただきました。

病院はそれほど大きくもなく小さくもなく丁度いいくらいの規模であり、各々いろいろなイベントや会があってとても充実した生活を送ることが出来ました。特に11月のおはら祭前夜祭への参加は、あのようなイベントの参加は生まれて初めてで、絶対自ら参加することはないイベントだったので、とても貴重な体験をさせていただきました。

また、看護師さんをはじめ、スタッフの方々がとても優しく親切であったことも印象に残っています。大病院にはない、病院自体がすくままっていて、チームワークがすくよい印象を持ちました。

鹿児島医療センター新人看護職員研修案内

楽しく学ぶ基礎看護技術講座

14:00～17:00

当院では、平成25年度看護研修に新人看護師さん向けの研修を企画しています。院外からの受講される方を募集しています。一緒に楽しく看護の基礎を学びましょう。

研修会場
鹿児島医療センター大会議室

- 「フィジカルアセスメントとは」 ・5月25日(土) 講師：集中ケア認定看護師 田代 祐子
- 「救急看護の基礎知識と急変時対応」 ・7月27日(土) 講師：救急看護認定看護師 伊藤 由加
- 「医療安全研修KYT」 ・9月21日(土) 講師：医療安全管理係長 米森 篤子
- 「実践に活かそう、看護師としての対話力」 ・10月19日(土) 講師：教育担当師長 中村 千鶴
- 「人工呼吸管理中の患者の早期離脱のための看護ケア」 ・1月25日(土) 講師：RST(呼吸ケアチーム)

参加を希望する方は研修参加申込書をご覧になり、必要事項をご記入の上、当院にFAXで申し込んでください。尚、連絡先につきましては個人の場合は自宅、団体の場合は病院の住所をご記入ください。後日決定通知書を送付致します。

問い合わせ先 鹿児島医療センター 教育担当 看護師長：中村 千鶴 FAX 番号 099(226)9246 電話番号 099(223)1151

■お問い合わせ先 鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】 菖田・四丸・永重・重吉・森・吉留・山口・酒井・櫻木・竹田津
直通電話▶099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476
※休日・時間外は当直者で対応します。

